

弱さを絆に

浦河べてるの家を訪ねて

三十年前に、過疎化の進む浦河町で、精神障がいを抱えた人たちが「町のため

けるの家」に通っている方もいるのです。

社づくり等など、べてるの理念をお聞きしました。

「べてるの家」と、メンバースタッフの秋山里子さんのお話し。テレビや新聞などで何度か報道されている。

私たちの横のテーブルでは、カフェでお仕事される方たちが「三度の飯よりミーティング」と言われ、自分を語り、仲間

登録者百名、スタッフ八十名、グループホームが八棟あり六十二名が住んでいる。また自宅から「べ

数々のミーティングで養われる人間関係は病気の副産物で薬だけに頼っては上手く行かないが、いつか社会にかえる環境循環型なのです。

容を教えて下さった。その後「カフェぶらぶら」に移動、秋山さんから、偏見差別大歓迎、利益のないところを大切に、公使混同大歓迎、手を動かすより口を動かせ、弱さの情報公開、昆布も売ります病気もうりませ、安心してさばれる会

市内の中学生に最新の医療に触れる機会を提供し。何よりも尊い「人の命」を救う医師の仕事に触れてもらい、一人でも多くの中学生が、将来の日本の医療を支える医師を志すきっかけになることを願って「外科手術整形外科 体験 ブラック・ジャック セミナー」を昨年秋から水面下で進めてきました。

八月五日、朝九時五十分に訪問した時は毎朝の掃除の時間でした。積極的に話かけてきて、仕事内

「自分が自分の悩みや苦勞を担う主人公」問題があればあるほど、コミュニケーションの場や仲間が増え、アイデアが生まれ、場が豊かで、

順調だと。人は突然の別れや病気など、辛く悲しいことがある。それらの思いを耐えすぎると、ストレスになる。私は帯状疱疹と

か眩暈という形であらわれた。それは誰にでも言えることで、大切な生き方を教わった気がします。(阿久津俊子記)

平成28年7月13日、北見市教育委員会が主管する「北見市小中学校校長会」で、本プロジェクトを説明して、中学生の参加募集を御願いしました。

北見赤十字病院は昭和10年、大日本赤十字社北海道支部野付牛療院として開院。今年で80周年を迎えます。病院の将来の医師確保の一助になればと取り組んでいます。

ブラック・ジャック セミナー

中学生に医師へのアプローチ

北見赤十字病院の賛同が得られ、手術室の見学、会場の提供

供、医師や看護師として医療スタッフがボランティアで参加して戴くことも決まりました。

本セミナーは、手塚治氏が描いたキャラクター「ブラック・ジャック」が無免許であることや、法外な報酬を要求する点に賛同するものでなく、天才的な外科手術を身につけ、維持し続けるという医療に対するひたむきな姿勢や、常に「医師の仕事とは何か」、「命の尊さとは何か」、「お金よりも大事なものは何か」を問う姿勢に共感したものであります。

外科手術 超音波メス体験 マネキンにお肉を置いて超音波メスで切除する



本セミナーは、手塚治氏が描いたキャラクター「ブラック・ジャック」が無免許であることや、法外な報酬を要求する点に賛同するものでなく、天才的な外科手術を身につけ、維持し続けるという医療に対するひたむきな姿勢や、常に「医師の仕事とは何か」、「命の尊さとは何か」、「お金よりも大事なものは何か」を問う姿勢に共感したものであります。